

平成21年度高教研地学部統一地区巡検報告

1. 日 時：平成22年2月18日（金）
2. 場 所：北茨城市平潟からいわき市周辺の露頭
3. 内 容：9:30 平潟に集合後周辺の新第三系露頭観察
いわき市へ
・アンモナイトセンター見学



日本最大のアンモナイト化石



アンモナイトセンター脇の露頭

小さいながらも、日本最大のアンモナイト化石や、化石が産出する地層をそのまま展示している大変珍しい博物館である。

- ・浅見川上流：白亜紀前期の花崗岩に対して不整合に載る双葉層群足沢層

写真の不整合面より下が前期白亜紀の花崗岩。上が双葉層群足沢層の扇状地を構成していたレキ層である。

この露頭をよく観察するには浅見川を渡る必要があるが、帰るときに水没してしまった。



- ・北沢北方採石場跡：巨大露頭



露頭全景

白亜紀層と古第三紀層との不整合

採石場跡の巨大露頭で、砂岩泥岩の互層が発達している。下部は陸成の蛇行河川堆積物である双葉層群笠松層。上部に同じく網状河川堆積物の玉山層。最上部には古第三紀の石城（いわき）層のレキが不整合で覆う。レキ種はほとんどがチャートであり、その供給源は不明とのことである。

- ・大久産業採砂上



ここも巨大露頭であり、現在も操業をしている。日本各地に露出する白亜紀の地層はほとんどが硬く固結しているが、ここはほとんど固結していない大変に珍しい地層である。一部に炭酸カルシウムが固結させている巨大ノジュールが含まれる。

- ・玉山層と石城層の不整合

フタバズキリュウが産出した近くの露頭。はっきりと不整合面が見える見事な露頭であった。

